

◆アンケートでは、「学費」についての不安を感じていらっしゃる保護者の方も多かったので、参考として学費等の比較をしてみます。大雑把な数字ですので、大学等のHPで確認してください。しかし、教育内容も様々なので金額だけで進路を選ぶのはお勧めしません。

区分	学費	下宿代	合計	備考
国公立大学自宅生	250 万円		250 万円	通学定期代が必要
国公立大学下宿生	250 万円	400 万円	650 万円	
私立文系大学自宅生	400 万円		400 万円	通学定期代が必要
私立文系大学下宿生	400 万円	400 万円	800 万円	
私立理系大学自宅生	600 万円		600 万円	通学定期代が必要
私立理系大学下宿生	600 万円	400 万円	1000 万円	
専門学校の平均	230 万円		230 万円	通学定期代が必要

*学費には、入学金 300,000 円程度を含む

*下宿代はアパート代 5 万円/月、家電等初期費用 20 万円、生活費 3 万円/月として計算

受験料（平均的な金額）*大学共通テストは、「成績通知あり」の場合

大学共通テスト （3 教科以上）	大学共通テスト （2 教科以下）	国公立二次試験 （1 出願）	私立大学（1 出 願）	専門学校（1 出 願）
18,800 円	12,800 円	17,000 円	35,000 円	2 万円～3 万円

私大を中心に 5 校受験する場合、20 万円程度は受験料として見込んでおく必要があります。専門学校に関してはそこまで難易度が高い訳ではないため、1 校分の出願費用だけで済むかもしれません。

◆入学金

合格後の入学手続きでは、まず入学金を納めなければなりません。第一希望の合格発表がまだ先ですが、浪人を避けるために入学手続きをするケースもあります。しかし、第一志望に受かって入学辞退をしても、一度納めた入学金が戻ってくることはありません。同じ大学内であれば後から合格した学部学科への振替ができるような大学もありますが、入学する大学の入学金と前期分の授業料に加え、いわゆる滑り止めの入学金も準備が必要になるわけです。

学校推薦型選抜（指定校推薦）や総合型選抜（AO入試）では合格が決まった後の 1 週間から 1 か月程度までには入学金を納付しなければなりません。（学校によって違いますので調べてください）

上位の志望校の合格発表の方が遅いことが多いです。併願校の入学手続きの期限が志望校の合格発表の前に来てしまう場合、浪人を避けたければ、志望校の可否を待たずに併願校へも入学金を支払う必要が出てきます。

◆年収（25～60歳までの年収見込み）

大学・大学院卒	約 2.4 億円
専門学校・短大卒	約 1.7 億円

約 7000 万円近くの差が出る計算になります。

大学卒だからといって、必ずしも上記のサラリーを獲得できるとは限りませんが、確率的には大卒の方が収入面で有利になることが多いため、目の前の進学関係費用だけで進路を決めないことが必要になってきます。

前述の通り、平均的な専門学校は修業年限が2年と短く、2年早く社会人として働き始めるため、一時的な資金繰りの面では有利です。受験生本人だけでは判断が難しいため、保護者が一緒になってしっかり考えることが重要です。

◆大学や専門学校への進学には多くの金額が発生しますが、その金額を軽減する方法は以下のように4つ存在します。

- (1) 奨学金をもらう（10～100万円程度 ※学校・制度により異なる）
- (2) 奨学金を借りる（2～12万円／月 ※JASSO）
- (3) 教育ローンを借りる（上限350万円 ※日本政策金融公庫）
- (4) アルバイトをする（月5万円程度）

*アルバイト等で学費の一部を稼ぐことも可能です。ただアルバイトをし過ぎて学業の時間がなくならないように注意が必要です。月5万円程度の仕事量が学業に支障をきたしにくいと言われています。

費用面のハードルをクリアして、お子様がベストな進路を選択できることを願っています。

東京地区私立大学教職員組合連合会で行っている「私立大学新入生の家計負担調査2018年度」によれば、大学受験費用の平均は自宅通学者で23万1000円だそうです。これに入学金と前期授業料を加えれば、入学までに少なくとも100万円程度が必要ということになります。

大学の学費を学資保険で準備しているご家庭も多いと思いますが、18歳満期でも入試までに満期金を受け取れないケースがあるので、満期金の受取日の確認も大切です。奨学金で進学を考えているご家庭も、奨学金は入学してからでないと受け取れないので、入試費用、入学金、前期授業料は準備しておかなければなりません。

不必要な出費を抑えるという意味からも、受験する大学を決めるときに、出願時期、入試日、合格発表、入学手続き期限などの日程を一覧表にしておくことをお勧めします。

お子様が落ち着いて入試に臨むためにも、そしてお金のやりくりで慌てることがないように、しっかりスケジュールを確認してください。

大学入試改革で試験内容が変わり、受験方法も複雑化しています。志望する大学についてよく調べ、どのようにスケジュールを組むと費用がどのくらいになるか、あらかじめご検討ください。